

中外炉工業課題と展望

尾崎彰社長に聞く

鉄鋼・非鉄金属プラントや熱処理炉などを手掛ける工業炉メーカー、中外炉工業（本社・大阪市）は、環境に配慮した技術・設備の研究開発を推進している。コロナ禍における足元の状況や、新技術・設備を開発する同社の取り組みなどについて尾崎彰社長に話を聞いた。（綾部 翔悟）

——前3月期は黒字 果により利益面も減益と（経常利益5億円、純 になった）

利益3億円）を確保し 「数字的には厳しい年 だ。コロナ禍の中、事 だつたが、コロナ禍で受 業環境の変化とは。 注減・営業活動の制限な

「コロナ禍当初、ユー ど普通では経験できない ザーの設備投資意欲およ よつなことが起き、従業 びメンテナンスの抑制な 員たちが危機意識を持ち どもあり、国内鉄鋼向け 始めた。この危機を乗り 省エネ型加熱炉などを納 越えるために新分野へ 入したが、期初受注が少 挑戦しようという意識 なく減収となった。経費 が芽生えたことは良かった 削減を徹底したが減収効 た」



環境に配慮した工業炉製造

トレンド先取りした研究開発を

その中でもここ数年、中 国では精密ステンレス鋼 ストリップの連続光輝焼 鈍炉など素材熱処理設備 を相次ぎ受注している。 中国国内の生活水準が向 上したことで、ステンレ スなどの需要が伸びた ことにより受注増につ ながったと考えている。 その他海外拠点では各

——今後の展望を。 「鉄鋼・非鉄金属プラ ントや熱処理炉などのエ ネルギー分野では、先端 技術の製造装置分野にも 開発領域を広げ、カーボ ンニュートラルを含め自 然環境に配慮した設備を 製造していく。情報・通 信分野はこれから本格化 する5G時代に、開発型

——足元の状況を。

「前下期から徐々に建 機・産機向けが回復して おり、前年と比べて受注 の伸びが期待できそう。

足元でもユーザーは『ウ イズコロナでもやるべき 投資はする』という認識

の下、必要な設備投資は 進められている」

——海外事業について。

「海外事業は補修・メン レンドとは。 「国内高炉メーカー各 社は、国内需要の縮小に 伴い製鉄所の選択と集中

の地域特性を生かした 事業戦略を推進してい

——鉄鋼向け設備のト レンドとは。

「当社が以前から取り 組んでいる省エネ設備の 製造の延長線だと考え ている。直近では21年5 月にNEDO事業『アン

ーボンニュートラルへ の取り組みなどについ

て。

「素材関連で全固体的な 開発することで、多様化す けるニーズに適応してい く。今後もユーザーに評 価される『モノづくり』 を随時行っている。既存 をさらに進化させ、脱炭 素化などをテーマに新た な価値を創造していき

「今後、国内ユーザー の新規投資意欲は大きく 伸びることはないだろ う。また自動車業界で進 んでいるEV化は、当社

主要ユーザーである鉄鋼 業界や自動車部品業界に 多大な影響を与え、こと になるだろう。その中で、 危機感をもって新しいこ とへチャレンジしていく 必要がある」

「大気浄化設備やキル ン・環境プロセス設備な ど環境保全分野につい ては人と地球の共生を テーマに、独自技術を開 発すること、多様化す